

図書館部会は、当初対面会議を予定しておりましたが、第1回(10/27)、第2回(12/22)ともに書面開催に変更しております。

今年度の協議事項は「町民の学びを支える図書館のあり方について」とし、地域の学習・情報拠点である図書館に関して、部会員の皆様より書面で広くご意見をいただきました。

町民の学びを支える図書館のあり方について

① コロナ禍における図書館サービスの工夫

➡利用者へも協力を促したり、開催形式を工夫したりして通常に近いサービスを継続する

(委員意見)

- 読み聞かせを図書館の屋上や中央公園など屋外で行う。
- 昨年、図書館が再開した当初、椅子が片付けられていて、借りることはできても、その場で本を開いたり腰かけたりして過ごすことができなかつたのが、一番淋しかったです。利用者がすべきこと(マスク、手指消毒、ソーシャルディスタンス等)を促し、館ですべきこと(換気、消毒、カーテン等)を守って通常に近い形で続けてほしいです。

② 子どもの時期からの読書の習慣付けを図る取組

- ➡図書館に行かなくても図書館事業を自宅で参加できる取組を検討する
- ➡子どもの検診や、医療機関や小学校図書室と連携し図書に関するPRを行う
- ➡ブックスタート、図書館、公民館、学校のそれぞれの読み聞かせ活動が連携して、相互に参加を促す
- ➡町内で活動する各読み聞かせボランティア登録を町で統一し、他の活動への希望を把握する

(委員意見)

- 既に十分な事業が実施されていると思うが、コロナ禍で人が集まることができないため、一つの事業について参加人数が限られてしまい残念です。このような中でも多くの人に図書館の事業に参加して頂くためには、図書館に行かずに図書館の事業に参加することができるようにしていかなければいけないと思います。ZOOM等で参加したり、動画を配信したりすることにより、自宅で参加できるしくみを作っていないといけないのではないのでしょうか。
- 検診の際に、年代に合う本の紹介や図書館利用の案内を行う。小児科、耳鼻科などへ月齢向けの本のコーナーや本の紹介を設置する。小学校の図書室と連携した本のPR等を行う。
- 寒川では、①ブックスタート(7カ月児・健康管理センター・町募集ボランティア)、②おひざにだっこのおはなし会(赤ちゃん・総合図書館・職員)、③おはなし会(未就学児・総合図書館・職員、図書館募集ボランティア)、③-a おはなし図書館と夏休み企画(北部公民館・北部ボランティア)、③-b おはなし広場と夏休み企画(南部公民館・南部ボランティア)、④小学校(各小学校・保護者、経験者、OBボランティア)と、0歳から小学生まで読み聞かせに触れる機会ができています。特に①のブックスタートのボランティアが②のおひざにだっこのおはなし会を勧める努力が必要です。②→③は図書館職員が担当なので促しやすいと思います。

- 寒川町内で活動する読み聞かせボランティアを町に登録し、活動の希望も把握する。小学校については「最寄りの小学校だけ」とか「おはなし会だけ」とか「どの小学校でも可」とか。小学校の読み聞かせは、保護者は基本的に自分の子のクラスあるいは学年で読みたいと考えているが、それ以外のボランティアは自分の住む地域の小学校でならやってもよいと考えている人と、本が読めるなら、手が足りないなら、どこでも行きます！と考えている人がいると思います。今後、読み聞かせが再開する時に、読み手が多く集まったクラスと1人、2人くらいで少ないクラスがあって、スタートに差がでないように動けるボランティアを入れて、一斉に始められるようにしてほしいです。クラスの保護者だけで頑張りすぎないでほしい。周りに応援したいおばちゃん達はたくさんいます。ただ、保護者ではないボランティアを受け入れる小学校側の不安のために、ボランティア登録という身分証明が必要と思います。

③ 図書館（室）が多くの町民に利用してもらえるよう、貸出利用者の向上に向けた取組や、北部・南部分室の機能について

➡立ち寄りやすいように明るい雰囲気づくりをする

➡分室でできる機能（予約本の受け取りや返却）の周知や新しい情報を得られる工夫をする

（委員意見）

- 南部公民館に時々行きますが、南部分室はあまり明るい雰囲気ではなく、そこで座ってゆっくり本を読んだり、選んだりしている人はあまり見かけません。しかし、総合図書館まで行くのが不便な人もいますので、予約した本を受け取りや返却する機能は必要だと思います。
- 南北の分室は昔から変わらず、少し暗い感じがするため、明るい感じに変えてみては。
- 総合図書館で借りた本を最寄りの北部で返却することはしていますが、北部で検索して取り寄せはやったことがありません。オンライン化されているのは理解していますが、実際に新しい情報や本を目にすることや、手にとれるチャンスがあるのは圧倒的に総合図書館で、北部、南部の位置づけ、蔵書量が中途半端なままと感じます。

④ 読書活動や図書館サービスについて自由意見

- 町ぐるみで『人生の10冊』のように自分にとってこれだと思う10冊の本を選ぼうというキャンペーンを行い、町民ひとりひとりが本を意識する活動ができるといいです。また多く挙げられた本とその理由なども紹介できるとおもしろいです。
- 今、多くの大学生がオンライン授業のため、町内の自宅で授業を受けています。レポート課題等が多く、しかし大学の図書館が利用できないという今までなかった状況に困惑していると聞いています。総合図書館には多くの専門書があることを知ってもらい、もっと多くの大学生に利用してもらえるとよいと思います。